

もくじ

- ・ フランダースの犬^{いぬ}

フランダースの犬^{いぬ}

げんさく
原作： ウィーダ

イラスト： しらい ゆうこ

へんしゅう
編集： YellowBirdProject

ベルギーのフランダース地方にある、小さな村に、
『ネロ』という少年がいました。ネロは、大好きな
おじいさんと、犬の『パトラッシュ』と一緒に暮ら
していました。

おじいさんの仕事は、村の農家からしぼりたての
ミルクを集めて、それをアントワープの町へ届ける
ことです。ネロとパトラッシュもそれを手伝い、今日も
みんなで、ミルク缶を積んだ荷車を引いて、
アントワープの町へ向かいました。

ネロはアントワープの町を訪れた時、必ず教会に
立ち寄りました。そこには、ルーベンスという画家の
描いた、マリア様の絵が飾ってありました。ネロは絵を
描くのが大好きでした。この教会には、もう一枚、
ルーベンスの描いた絵が飾ってあるのですが、お金を
払わなければ見ることができないので、貧しいネロは、
まだ一度もその絵を見たことがありませんでした。



ネロの^{とも}友だちに、アロアという^{おんな}女の子がいました。
アロアの^{いえ}家は^{むらいちばん}村一番の^{かねもち}お金持ちで、^{むら}村にある^{おお}大きな
^{ふうしゃ}風車も、アロアの^{ちちおや}父親、^もコゼツさんの^{もの}持ち物でした。

ネロはいつも、^{しぜん}自然の^{けしき}景色を^{えが}描いた^え絵や、
^えパトラッシュの^か絵を描いて、アロアに^み見せていました。

「ネロの^え絵は、^{ほんとう}本当に^{うま}上手いわ。いつか^{りっぱ}立派な^が画家に
なれるわよ」

「うん。^がルーベンスのような^が画家になるのが、^{ゆめ}夢なん
だ」

